国語科学習指導案

指導者　　中西　果織

1　日　　時　　令和５年 11 月 18 日（土）　第１校時（９：００～９：４５）

2　学年・組　　小学校第３学年２組　計 31 名（男子 15 名，女子 16 名）

3　場　　所　　小学校第３学年２組教室

4　単 元 名　　登場人物について考えよう「モチモチの木」（光村図書・小学校国語３年）

5　単元について

本校の国語科教育では，文学という言語表現に触れる中で，これまでの自分の経験を想起したり，味わったことのない未知の体験を想像したりしながら自分自身と向き合っていく中で，他者に対して自分の思いを伝えるために自分の言葉をつくり，豊かに言葉を紡ぎ出す姿を目指している。白坂（2018）は「『子どもの論理』で創る国語の授業－読むこと－」（明治図書）において，「文学作品の読みの大きなねらいは，豊かな文学体験をさせることであり，自力で物語を読み，作品世界を意味づけたり価値づけたりする力を育てること」としている。また，「言葉のはたらきや文の効果をとらえて場面の移り変わりや人物の変容を読み，一人ひとりの解釈を交流し合うことで，自分の読みを確かで豊かな読みへと変えていくことをねらいとする。」と述べている。本単元は，登場人物について考えたことを共有することで，より多面的に物語や登場人物を捉えられるようになることを主なねらいとした。本教材「モチモチの木」は，現行の全ての小学校３年生の教科書に掲載されており，端的な小見出しの付いた５つの場面，はっきりとした個性をもった魅力的な登場人物，緊張感のあるクライマックス，共感しやすい主人公の変容など，一読すればおおよそ展開がつかめる明快な物語で，登場人物の気持ちの変化や性格について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することに適した教材である。

本学級の児童は，これまでに場面の移り変わりや展開に注意しながら，場面の様子や人物の気持ちを想像したり，人物の気持ちや考え方の変化に気を付けたりして読む学習を行ってきた。物語文の学習が好きな児童は８割を超え，その理由に登場人物に同化できることや，物語の展開の楽しさを挙げているが，人物の気持ちを考えていくことの難しさも感じている。また，自分の考えを書いたり発表したり，友だちの考えを聞いたりすることが好きな児童が８割に達していないことからも，自分の考え方に自信がもてず，友だちと比較することに苦手意識を感じていることが分かる。そのため，本単元では，友だちと考えを話し合いたくなる課題を設定し，叙述を基に読み取ったことを話し合うことを通して，友だちとの見方や考え方の違いやそのよさに気付いたり，自分自身と向き合い，様々な気持ちを感じたりできるようにしながら，人物の性格や物事に対する見方を多面的に捉える力を付けていきたい。

指導にあたっては，叙述を基に場面の移り変わりや登場人物の変容を理解できるようにするだけでなく，物語や人間の多面性や多様性を感じさせ，言葉豊かに自分の読みや考えを表現したり，自己の変容や伸長を自覚したりできるようにしたい。そのために，本教材に入る前に道徳や特別活動の時間を活用して「自分マップ」を作成し，自分自身を見つめたり，友だちや親からの自分に対する見方を知ったりすることで，人物を多面的に捉えたり，自分と比較したりする感覚を味わわせたい。また，斉藤隆介の絵本を教室に置き，物語の世界へ入りやすくする「しつらえ」をつくる。そして，「豆太」の境遇や「じさま」の「豆太」に対する思いなどを読み取り，自分の生活や経験を見つめて考えたことや感じたことを話し合う中で，最初に読んだ一次感想とは違った味わい深さや自らの読みの深まりを感じさせたい。

また，本教材の大きな要素の一つとして，「語り手」の存在があり，登場人物は常に「語り手」の見方や考え方を通して語られているため，児童の「豆太」や他の登場人物の捉え方に大きく影響し，「豆太」の変容や「モチモチの木」についても意見が分かれることが予測される。児童の読みの違いや疑問を一次感想から児童とともに学習課題として設定するからこそ，対話に必然性が生まれ，友だちの意見との

共通点や相違点に着目し，受け入れることで自分の読みをより深めていくことができると考える。さらに，他者と対話することによって，自分の読みを問い直していくことになり，そこに生まれた児童の考えの変容を，適したタイミングで取り上げ，自覚させることで，物語を豊かに読める児童を育てたい。

6　単元の目標

（1）　様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，語彙を豊かにしている。　【知識・技能】

（2）　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，叙述を基に場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像したり，多面的に捉えたりしたことを自分の言葉でまとめることができる。

【思考・判断・表現】

（3）　登場人物の性格について場面の移り変わりと結び付けて粘り強く想像し，感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとしている。　【主体的に学習に取り組む態度】

7　指導計画（全 12 時間）

次	時	学習内容
0		「自分マップ」を作成し，自分を見つめる。斎藤隆介の絵本を教室後方に並べる。
1	1	絵本「モチモチの木」の範読（朗読音声）を聞き，一次感想（一番心に残ったこと，不思議に思ったこと，豆太たちについて思ったことなど）を書く。 物語のあらすじを各自で一文「〇〇だった豆太が，△△によって，□□な豆太になる話。」にまとめる。
	2	一次感想と一文あらすじを基に，「豆太の何が変わったか，何が変わってないか」という単元の課題を設定する。 斉藤隆介の絵本の「登場人物マップ」を作ることや作り方を確認する。 言葉の意味を確認しながら役割音読を行う。
2	3	「豆太の何が変わったか，何が変わってないか」という単元の課題をグループで考え，場面ごとに「豆太マップ」にまとめる。
	4	「豆太の何が変わったか，何が変わってないか」という単元の課題をグループで考え，場面ごとに「豆太マップ」にまとめる。
	5	「豆太マップ」を全体で交流し，相違点を基に議論しながら完成させる。
3	6	じさまの気持ちや豆太との関係性を考え，「じさまマップ」をまとめる。
	7	「豆太マップ」と「じさまマップ」の真ん中に「モチモチの木」を置き，両者にとっての「モチモチの木」とは何か，また，自分にとっての「モチモチの木」とは何かについて考える。(本時 7 ／10)
	8	再度，一文あらすじ「〇〇だった豆太が，△△によって，□□な豆太になる話。」をまとめ，１次に書いたものと比べながら，自分の見方や考え方がどう変わったか，二次感想を書いて交流する。
4	9	豆太と比較しながら斉藤隆介の絵本の「登場人物マップ」を完成させる。
	10	豆太と比較しながら斉藤隆介の絵本の「登場人物マップ」を交流し，人物を比較したコメントを伝え合い，学習をまとめる。

8　本時の目標

「豆太」や登場人物にとっての「モチモチの木」とは何か，自分にとっての「モチモチの木」は何かを考えることを通して，登場人物の気持ちや見方の変容について叙述を基に捉え，自分の考えをまとめることができる。

【思考・判断・表現】

9　「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	登場人物の対象物に対する気持ちや見方の変化について，叙述を基に読み取り，友だちの考えを受け入れたり，自分の生活や経験と結び付けて考えたりし，言葉豊かに自分の考えをまとめている。
Ⅱ	登場人物の対象物に対する気持ちや見方の変化について，叙述を基に読み取り，友だちの意見を踏まえて，自分の考えをまとめている。
Ⅰ	登場人物の対象物に対する気持ちや見方の変化について，叙述を基に読み取ることが難しく，自分の感じたことのみをまとめている。

手立て【関連する教師の資質能力】

○　児童の一次感想から学習課題を設定し，「登場人物マップ」を作成する活動を取り入れることで，物語を読む必然性をもたせ，友だちと対話しながら考えた，多面的な見方，考え方を感じられるようにしたり，言葉豊かに自分の考えをまとめることができるようにしたりする。　【授業構想力】

○　教師はファシリテーターとなって，児童の発言を整理したり，児童の反応や話し合いの内容に合わせて適したタイミングで児童の発言を取り上げたり，発問したりすることで，児童の読みの深まりを感じさせることができるようにする。　【授業実践力】

10　学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1．前時までの学習を振り返る。 ・「豆太」や「じさま」の気持ちに変化があった。 ・「モチモチの木」が「まいごのかぎ」での鍵だ。	○　これまでに作成した「豆太マップ」と「じさまマップ」を両端に板書し，間に「モチモチの木」があることに着目させる。
2．本時の課題を確認し，自分の考えを話し合う。 ○「モチモチの木」に灯はついたのだろうか？	○　第１次で児童と共に考えた課題を提示することで，学習への意欲を高める。
「豆太」や「じさま」にとっての「モチモチの木」について考えよう。	
・「じさま」も「おとう」も「豆太」も灯を見たのだから勇気を示す木だと思う。 ・「医者様」が言うように，月の明かりが灯に見えただけだろうから，普通の木だと思う。 ・「豆太」は，せっちんにじさまを起こすのだからまだこわいと思っている。 ・「じさま」は「山の神様の使い」だと思っているのではないかな。 ・「豆太」は，「やい、木ぃ」とは言わなくなっているはず。だって，自分を認めてくれたから。	○　「『モチモチの木』がなぜ題名になっているのか」「なぜ人物によって捉え方が違うのか」などの発問を用意しておき，児童が意図的・意欲的に対話できるようにする。 ○　「豆太マップ」「じさまマップ」を参考に，叙述を基に様々な視点から考えることができるようにするとともに，「モチモチの木」に対する見方の変化が捉えられるように板書で整理する。 ○　「モチモチの木」を身近な物と比較するなどして，より深く捉えられるようにする。
3．自分自身にとっての「モチモチの木」について，考えを話し合い，まとめる。 ・ぼくにとっての「モチモチの木」は勇気を出して見られた灯と同じで，勇気を出して手に入れた「金メダル」が自信を示すものです。 ・わたしはみんなが入院中にくれた「メッセージ」が，勇気をくれるものです。	◆　叙述を基に「豆太」や「じさま」の「モチモチの木」に対する見方を多面的・多角的に捉え，「モチモチの木」について自分の考えをまとめることができる。 【ワークシート記述・発言（思・判・表）】
4．次の時間の見通しをもつ。	

【引用・参考文献】

白坂洋一編著・香月正登・大澤八千枝著（2018）「『子どもの論理』で創る国語の授業－読むこと－」明治図書